

# 国語 第3学年 豆太の気持ちの変化や性格を場面の移り変わりと結び付けて想像し、考えたことを伝え合おう

## 検討会の想定問答

**指摘 1:** ねらいが曖昧ではないか。第3学年のこの時期に何を身に付けさせるのか。

**返し:** 中心はC(1)エ「登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像すること」。低学年のC(1)エは「場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること」で、第3学年から「気持ちの変化や性格、情景」と「場面の移り変わりと結び付けて」が加わる。この教材は性格と情景の両方を扱えるので、加わった部分をねらいにした。合わせて(1)オ・クとC(1)イ・カを評価する。

**指摘 2:** 評価規準は何か。どこで見るのか。

**返し:** 3観点で書いた。文末は国立教育政策研究所の参考資料に合わせ、知識・技能と思考・判断・表現は「～している」、態度は「～しようとしている」。知識・技能①は第1次の語句カード、②は各時の音読、思考・判断・表現①は第2次の表、②は本時と灯の場面の時間のノート、③は第3次の文章と付箋、態度①は第3次の文章の見直しと振り返りで見える。

**指摘 3:** 言語活動は何か。

**返し:** C(2)イ「詩や物語などを読み、内容を説明したり、考えたことなどを伝え合ったりする活動」。場面ごとに豆太の行動と気持ちを表に書いて根拠とともに説明し、最後に単元の問いへの考えを書いて伝え合う。

**指摘 4:** 個に応じた指導はどうするのか。

**返し:** 読むのが苦手な子には本時の場面だけの拡大本文とルビ、線を引く叙述を一か所示す。書くのが苦手な子にはまとめの文の型を板書で示す。早く終わる子には語り手の言葉と行動を比べる問い。第3の1(9)の「困難さに応じた指導内容や指導方法の工夫」に当たる。

**指摘 5:** ICTは使わないのか。

**返し:** 二つ想定している。自分の音読を端末で録って聞き直し、場面の様子が伝わる読み方かを自分で確かめること(1)ク)。豆太の表を共有の画面で作し、全員の書き込みを一度に見ること。第3の2(2)の「コンピュータや情報通信ネットワークを積極的に活用する機会」に当たる。端末が無ければ紙の表と付箋で同じことができる。

**指摘 6:** 教科書の手引きどおりでいいのか。独自性はあるのか。

**返し:** 手引きは指導要領の指導事項に沿って作られているので、外す理由はない。この設計図は指導事項から直接組んであり、どの会社の教科書でも使える。独自の所は、語り手の言葉と豆太の行動を分けて表に書くことと、昼の木・夜の木・灯がついた木の見え方を同じ表で比べて情景と気持ちを結び付けること。教材は第3の3(1)の「言語活動が十分行われるよう教材を選定する」に沿い、C(2)イに合う。

**指摘 7:** 時間が足りない。

**返し:** 光村図書出版の全12時間に合わせた。本時の前後で人物の行動を確かめ、後半はC(1)カに沿って考えを伝え合う時間を確保する。時数を変える際も、根拠を読んで書くことと交流後の再読を残す。

**指摘 8:** 発問が多すぎないか。

**返し:** 本時の中心発問は「夜がこわい豆太が、なぜ、どんな気持ちで走ったのか」の一つ。他は様子や行動の言葉を確認する問いと、つまづいた子への補助の問いで、全体には中心発問だけを板書する。(1)オの語句や(1)クの音読は、第3の1(3)にあるとおり思考力等の指導を通して指導するので、別の発問は立てない。

**指摘 9:** 音読が多いが、読みの力は付くのか。

**返し:** (1)クは「文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読すること」で、音読そのものが知識・技能の指導事項。この教材は語り口調で書かれているため、声に出すことで場面の様子や豆太の気持ちが思い浮かびやすく、C(1)イ・エの叙述を基にした想像につながる。評価は知識・技能②として観察で行う。

**指摘 10：**板書はどう使うのか。

**返し：**豆太の表を単元の最初から同じ形で掲示し、本時はその走る場面の欄を埋める。様子や行動の言葉の短冊から矢印で気持ちを引き出し、気持ちを二列（こわさと、助けたさ）に分けて書く構造は、二つの気持ちが同時にあることを子どもが見て分かるようにしたもの。C(1)エの「場面の移り変わりと結び付けて」は、右の前の場面の表と矢印でつなぐ。

**指摘 11：**振り返りは何を書かせるのか。

**返し：**「今日、言葉から分かった豆太の気持ち」と「友達の考えを聞いて思ったこと」の二つ。二つ目がC(1)カ「一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと」の評価場面。第3の1(1)の「主体的・対話的で深い学び」は、子ども自身が考えの変化を書くことで確かめる。

**指摘 12：**学習指導要領のどこに書いてあるのか。

**返し：**第2〔第3学年及び第4学年〕2内容のC読むこと(1)イ・エ・オ・カと(2)イ、〔知識及び技能〕(1)オ・カ・ク、(3)オ、学年の目標(2)(3)。教材の観点第3の3(2)キ「自然を愛し、美しいものに感動する心」に当たる。原文は授業の設計図の「学習指導要領のどこに書いてあるか」の欄に載せた。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie\_ai\_katsuyo)  
[https://www.threads.com/@mie\\_ai\\_katsuyo](https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo)

LINEオープンチャット  
みえ先生ラボ

